

最先端研究開発支援プログラム(FIRST)「原子分解能・ホログラフ  
ー電子顕微鏡の開発とその応用」(外村プロジェクト)  
の取扱いについて

平成 24 年 7 月 30 日  
内 閣 府  
政策統括官(科学技術政策・イノベーション担当)

1. FIRST の中心研究者(30人)の一人である<sup>とのむら</sup>外村彰博士が、5月上旬に逝去された。これに伴い、同博士主導のプロジェクト「原子分解能・ホログラフー電子顕微鏡の開発とその応用」の取扱いについて、「最先端研究開発支援推進会議(科学技術担当政務三役と総合科学技術会議有識者議員で構成)」において、下記の経過をもって、調査検討とこれに基づく判断を行った。
2. 結論として、別紙のとおり、①本プロジェクトについては、中心研究者の代行者を置くことにより、所期の目標達成が可能な段階にきていること、②本プロジェクトの達成目標は、現時点においても、世界をリードする目標として国際的な優位性を有していること等を総合的に勘案し、継続実施していくこととされた。
3. なお、本プロジェクトの進捗状況については、現在準備を進めている FIRST の中間評価において確認することとしている。

(参考) 外村プロジェクトの取扱いに係る調査検討及び判断の経過

最先端研究開発支援推進会議が判断を行うに当たっては、総合科学技術会議有識者議員で構成する「最先端研究開発支援プログラム推進チーム」が、外部有識者の協力を得て、調査検討を実施した。

- (1) 5月10日 最先端研究開発支援推進会議(論点及びスケジュールの決定)
- (2) 最先端研究開発支援プログラム推進チームで調査検討  
5月16日 現地調査(日立製作所中央研究所基礎研サイト(埼玉県鳩山町)  
23日 補助事業者(科学技術振興機構、日立製作所、理化学研究所)  
からの聴取  
31日 プロジェクトの今後の取扱いに係る調査検討結果の取りまとめ
- (3) 6月7日 最先端研究開発支援推進会議(プロジェクトの今後の取扱い決定)